

< はじめに >

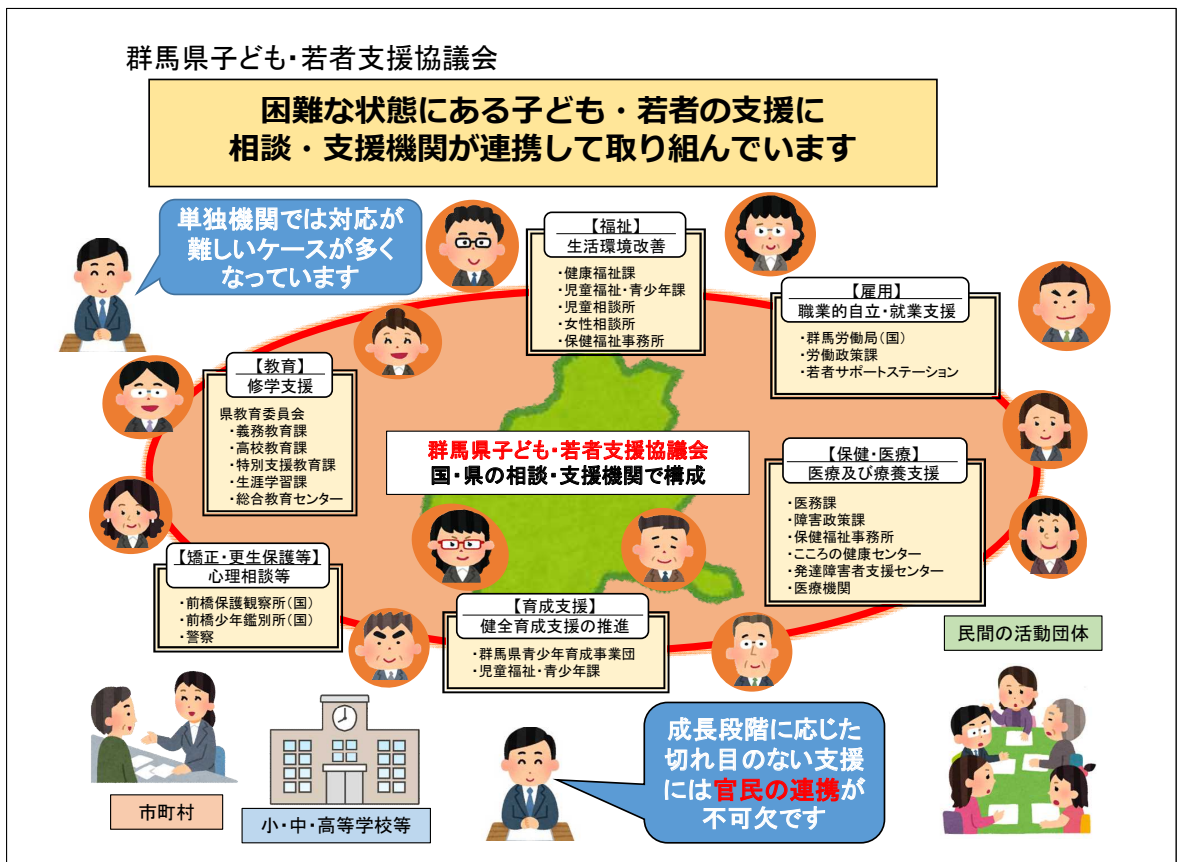
困難な状況にある子ども・若者の支援では、本人や家庭が抱えている問題が複雑、多様化していることから、支援にあたっては、既存の相談・支援機関等の社会資源の活用や支援の連携等の総合的な対応が求められています。

特に、思春期（12歳～18歳）は、心理・社会的な自立をとげて大人の仲間入りを目指していく大事な準備期間です。その成長過程で、友人関係や学校生活でのトラブルを抱えたり、非行に走ったり、発達障害に初めて気づいたり、家庭環境の問題が生じたりして、様々な要因で立ち止まってしまうことがあります。なかには不登校で悩み苦しんだり、ひきこもり状態が長期化して学校や社会の支援から離れて孤立してしまったりすることもあります。問題を抱えたまま周りに相談できずに苦しんでいる子ども・若者もいます。

このガイドは、支援に携わっている皆様に向けて、増え続けている不登校の児童生徒への支援を中心に編集しました。最初に県内における不登校の実態を取り上げ、本人や親御さんが抱える困り感や孤立感、どのような支援が一步を踏み出すきっかけになったか等、当事者たちの経験を紹介しています。次に、学校における支援、学校外における支援についてまとめました。そして、「社会資源の活用と支援連携の必要について」をテーマに実施した「令和3年度県・市町村青少年相談担当職員研修会」から意見交換の要旨、児童相談所やスクールソーシャルワーカー（SSW）の活動を紹介しました。

すべての支援者が、支援機関等の社会資源を活用し、支援の連携を積極的に進めて、当事者に対する相談・支援の対応がより深く、より幅広くなることを願っています。

また、当事者の皆様にとっても、支援情報として役に立てたら幸いです。



もくじ

1 増え続けている子どもたちの不登校

- ＜県内における不登校の実態＞ 1 頁
- ・参考資料 令和2年度「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」結果
- ＜不登校を経験した本人、親たちの声＞ 3 頁
- ・意見交換「私の不登校経験」
～広域通信制高校3年生たちが、支援者に送るメッセージ～
 - ・座談会「我が子の不登校と向き合って」
～誰もが同じようなことで苦しんでいる。だから今、皆さんへ伝えたい～

2 学校における不登校児童生徒への支援

- (1) 小・中学校 8 頁
- ・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、教育支援センター
- (2) 高等学校 10 頁
- ・高校生の不登校相談

3 学校外における不登校児童生徒の支援

- (1) 医療機関 13 頁
- (2) 地域の身近な支援者（民生委員・児童委員）
- (3) 安心・安全な居場所（子ども食堂、フリースクール、フリースペース）
- (4) 群馬県青少年育成事業団の支援事業
- ＜参考＞ 群馬県子ども・若者支援協議会（高校中退者等の支援）

4 社会資源の活用と支援の連携

- (1) 意見交換 17 頁
- テーマ「社会資源の活用と支援連携の必要について」
- (2) 社会資源の活用 20 頁
- ① 児童相談所における支援活動
 - ② スクールソーシャルワーカーの活動

5 資料編 【支援機関連絡先一覧】

- (1) 不登校のことを相談する 24 頁
- (2) こころの健康・病気・発達障害等のことを相談する
- (3) 子育てのことを相談する
- (4) 社会生活や対人関係の悩みを相談する
- (5) その他の機関に相談する